

荒木寛二作 「キリストにあって一つ」

- 友達 C ねえねえ 直美。見たぞ、昨日のテレビで。直美のおやじさん、出てたろ。
- 友達 A えー！ あの木村ナントかって人、やっぱしそうなの？ だけど、直美のお父さん、結構やるじゃん。警官と渡り合うなんて勇氣あるよ。カッコは少々ダサいけどさ。(笑い)
- 友達 B ところで直美。あんたのお父さん、あの神社と何か関係あんの？ 恨みでもあるんでしょう。すごい顔つきだったよ。マジで聞くけど、どうしてあんなデモみたいなことしたの？
- 木村直美 わたしもよく分からないのよ。以前、あの靖国神社という神社について、父から聞いたことがあったけど、関心なかったしね。
- 友達 C 直美、君のおやじさん、クリスチャンだろう？ キリスト教って愛の宗教だろ？ それがなんであんなことするんだよ。ケンカ腰で人に突っかかりして。ヘンじゃん。
- ナレーション 木村直美は青春高校 2 年生。彼女の父は熱心なクリスチャンで、日ごろは物静かなのですが、こと信仰の問題になると熱が入り、特に憲法で認められている信教の自由が侵されそうな問題が起こると、その反対のためにどこへでも出かけていくので、“キリスト気違い”と陰口を言う人もいるぐらいでした。それには訳があったのです。
- (効果音) (夕食時の団らん)
- 和夫 お姉ちゃん。おれ、今日学校で鼻高かったよ。だつてさ、おやじ、テレビにドアップでバッチリ出ちゃったからな。「和夫のおやじ、迫力あるじゃん」てみんなが言うから、おれまで気分よかったよ。
- 直美 なりは伸びても、やっぱ、中学生は単純ね。テレビに出ればすぐ「カッコいい！」だもんね。そこへいくと、わたしも高校生ともなりますと、中学生のジャリどもとは少々違いましてね。
- 和夫 なんだよ。自分たちだつてテレビに出たいくせに。しかしその顔じゃどうでしょうね。
- 直美 何よ。顔のこと、あんたに言う資格あんの？ 素は同じよ。
- 母昭子 あらまあ、悪かったわね。でもお父さん、いろいろと言う人がいますから、ほどほどにしておいてくださいね。わたし、心配で。
- 父勝一 何を言うんだ。正しいと信じることを正々堂々と主張することは大切なんだ。お前のお兄さんも、生きていたら、きっとおれと同じことをしていると思うよ。あんな過ちは 1 回きりでたくさんだよ。
- 直美 お父さん。前の戦争のこと言ってるの？ 確か伯父さんはインドネシアで戦死

したんだよね？ 今でもおばあちゃんから時々、伯父さんのこと聞くわ。親だも
ん、いつまでも忘れられないんだね。

和夫 伯父さんは確か飛行機に乗ってたんでしょう？ あのカッコいいゼロ戦に乗っ
てたのかなあ。おれも一度乗ってみたかったなあ。あこがれちゃうよ。

母 (厳しく)戦争なんかカッコよくありません！ 兄の戦死の知らせが来た時のこ
と、今でも思い出すと…。一瞬時間が止まったようで、何を考えているのか分
からなくて。一生懸命何かしようとするんだけど、何もできなかった。ほんと
に優しい兄だったのに——。父なんか、その時からもう働く力がなくなったよ
うで、しばらくは仕事を休んでしまっただけでね。父がまだ 60 歳で亡くなったのは、薬
がなかったせいもあるけど、でもほんとはあのせいだと今でもわたしは思っ
ているの。

直美 ところでお父さん。その戦争とお父さんのデモとどんな関係があるの？ 「なん
であんたのお父さんが？」って聞かれたんだけど、わたし、何も答えられな
かったの。

父 うん。お父さんは、まだ小さくて戦争には行かなかったし、直接には関係ない
んだが、でもこれは大切なことなんだ。問題の本質は、過去の戦争というより、
これからの日本、そう、直美や和夫たちの問題だからね。

和夫 ええー、そうなの？

父 うん、この前の戦争に負けるまでは、大部分の日本人はこう考えていたんだ。
日本は特別な国で、他のアジアの国々を指導しなければならないと。しかし結
局は、アジアの国々を武力で支配してしまったんだ。靖国神社というのは、明
治の始め以来、この国のための侵略戦争に駆り出されて戦死した人々を祀っ
てあるんだが、戦争中、「靖国は特別の神社で、単なる宗教ではない」と言わ
れ、自分の信仰に関係なく、日本人のだれもが、礼拝しなければならないと命
令されていたんだ。真の神様だけを礼拝するキリスト教の指導者の仲には、こ
のため牢獄に入れられたり、中には殺される人も出たんだ。

和夫 そんな。ひどい…。

ナレーション 直美の父は、一つ一つ丁寧に子供たちに話して聞かせました。この前の戦争
で死んだ軍人の二百数十万人が神様として靖国に祀られていること。その中
には、戦後、戦争の責任を問われて処刑された人たちも加えられていること。
でも、祀られているのは軍人だけで、戦争で死んだ何十万という一般の人々
は入っていないこと、など。

直美 そんな！ 多くのアジアの人々を罪もなく殺しておいて、神様として祀るなんて
おかしいわよ。

母 でもなくなった方々の遺族の気持ちを考えるとね。その中には、「国のために
戦って死んだ人たちの神社だから、国が特別に面倒を見てくれてもいいでは

ないか」と言う人も多くいて、政府も困っているんでしょ？ もっとも、憲法の原則は“政教分離”ですからね。

和夫 “セイキョウブンリ”って？

父 うん、国が一つの宗教を特別に助けたりしてはいけないということだよ。しかし、イエス様が十字架につけられた時のことを考えてごらん。政治と裁判の責任を持っていたピラトは、人々が「十字架につけろ」と脅かすので、ついに罪のないイエス様を十字架につけてしまっただろ？ 王や政府は、時には人々の声に負けて、誤ったことをしてしまうこともあるんだ。だから、気をつけて見張ってなければいけないんだよ。まず国の偉い人が公式に靖国に参拝する。次には「国民も拝みなさい」となって、気がついたら、また「国のために戦ったら、いつでも靖国で神様になれるぞ」ってなことになりかねないんだ。

ナレーション 直美は、父の話を聞きながら、それまであまり深く考えもしなかった問題が、何か非常に恐ろしいことのように思えてきたのです。

その週末の午後、直美は学校の帰りに教会の高校生会に出席しました。しばらく前から、父の勧めで出席していたのです。

リーダー それでは、今日はこのメンバーで始めましょう。今日は特別ゲストが出席されているので、まず紹介します。フィリピンからの留学生で、クリスチャンのペピトさんです。2年前から日本に来て、日本の政治と歴史を学んでいらっしやいます。ひと言あいさつしていただきましょう。

ペピト 皆さん、こんにちは。わたしはペピトと申します。まだあまり日本語上手じゃない。わたしも高校生の時、クリスチャンになりました。それで、日本に来ようと思うようになりました。クリスチャンにならなかつたら、決して来なかつたでしょう。

ナレーション そう言って、彼は、たどたどしい日本語で自分の身の上話をしてくれました。

(音楽)
(暗い不気味な感じ)

ナレーション 太平洋戦争が始まり、やがてペピトさんの村にも、日本軍が進駐してきました。そのころ、ペピトさんの一番上の兄は、村の青年のリーダーでしたが、あることから、日本軍にスパイの疑いをかけられ、そしてろくな裁判もせずに処刑されてしまったのです。その後、お兄さんは無実であることが分かったのですが、病気だったお父さんは、「決して日本人を赦すな」と言い残して、自らの命を絶ったのです。

ペピト 長い間、わたしの心は日本人に対する憎しみで一杯でした。クリスチャンになって、やっと少しずつ、日本人を赦すことができるようになったのです。それと共に、日本について知りたいと思うようになり、やっとこうして日本に学びに来ることができました。

リーダー 皆さん。ペピトさんに質問したいことはありませんか？

ナレーション ペピトさんは、一人ニコニコしながら、みんなを見回しています。でも、あまりの

ショックな話に、だれ一人質問する者はいませんでした。

リーダー

直美さん。何か質問があるの？ 遠慮なく聞いて。

ペピト

ナオミ？ 聖書の中の名前だね。いい名前ですね。クリスチャンですか？

直美

まだクリスチャンではアリマセン。父はクリスチャンです。あの、わたし、1 つ質問があります。ペピトさんは靖国神社を知っていますか？

ペピト

ヤスクニ？ はい、知っています。

直美

どう思いますか？

ペピト

わたしの国では、日本軍によって、100 万人もの人が殺され、傷つけられました。アジア全体では、日本のソルジャーの試写よりも、10 倍もの人が被害者となりました。日本の人は、自分の国のソルジャーをかわいそうと思うでしょうが、わたしは、本当にかわいそうなのは、アジアの被害者の人たちだと思います。日本は強い国ですから、時々、恐ろしくなります。

直美

強い国？ そうですかあ？ だって戦争はもうしてないし…。

ペピト

それ違います。日本の自衛隊、もう戦争前の軍隊より大きくなっています。世界でナンバーエイトですよ。でも、わたしがもっと怖いのは、日本人が強いだけでなく、皆が同じように考え、同じようになんでもすることです。

直美

そうかなあ。わたしは、今は皆が勝手に、バラバラになっていると思うんですけど。

ペピト

わたしには、そう見えません。皆同じでないと、落ち着かないように見えます。わたしは、日本の人が、弱い立場にある人を心から愛することができることを願っています。エコノミックアニマルと言われるのではなく、優しい心を持った日本人であってほしいです。そうしてこそ、あなた方は初めて、アジアの人々に憎まれたり、恐れられたりすることなく、本当のリーダーになれると思います。違いますか？

ナレーション

直美は、家に帰っても、ペピトさんの言葉の一つ一つが、耳を離れませんでした。なんだか自分の心の中を言われたような気がしたのです。彼女はそのことを父に話しました。

父

そうか。良い話を聞いたね。直美も“罪”ということが本当に分かり始めたんだよ。“自己中心”、“自分の国中心”の考え事態が、神様の前には“罪”なんだよ。それがやがて、人を傷つけたり、無謀な戦争をしたりすることになるんだものね。直美が、ペピトさんの言葉を本当に自分のものとして受け止めるなら、そんな世界の人々に愛される日本人になるには、まず何をしなければいけないか、と言うより、自分はどう変わるべきなのか、考えてみることだね。イエス様は、そのために十字架にかかってくださったんだよ。

ナレーション

そう言いながら、父が開いてくれた聖書には、こう書いてありました。

父

「ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由人もなく、男子も女子もありません。

なぜなら、あなたがたは皆、キリスト・イエスにあって一つだからです。」(ガラテヤ 3 章 28 節)

<完>